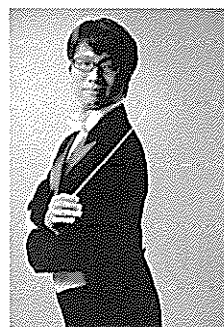




© 有山 正樹

指揮者プロフィール



中田 延亮
Nobuaki Nakata
指揮
Conductor

© 深谷義行/aura.Y2

京都生まれ。筑波大学医学専門学群在学中に桐朋学園ソリスト・ディプロマコースに入学しコントラバスを専攻する一方、指揮も学び、在学中より指揮活動を開始。その後2005年より本拠を欧州に移し、ウィーン市音楽院古楽科などで更に学ぶ。また巨匠ジャン・フルネ氏に認められ最晩年の生徒として師事し大きな薫陶を受ける。その他、上杉隆治、広上淳一、湯浅勇治、ミヒヤエル・ディットリヒ、イサーク・カラブチェフスキー、ニールス・ムースの各氏にも教えを受けている。

07年、ブルガリアのスタラザゴラ歌劇場でヨーロッパデビューを果たし、ドナウ交響楽団主催の国際指揮者コンクールにて第1位を受賞。その後はラトヴィア国立交響楽団とのエストニアツアー、ルーマニアのブラショフ歌劇場など各国への客演を続けている。08年にはブラジルにおける日本人移民100周年を記念して皇太子殿下ご臨席の下、リオデジャネイロの伝統ある市立劇場で開催された「日伯交流音楽会」に招聘され、ペトロプラス交響楽団を指揮した。14年、群馬県で群馬バロックオーケストラを創設、後期バロックをレパートリーの軸にして活動を続けている。現代作品の演奏にも積極的に取り組み、アンドリス・ゼニティス(ラトヴィア)、ガブリエル・ペニード(ブラジル)など各国の若い世代の作曲家から絶大な信頼を寄せられている。

これまでに上記各楽団に加えてポルト・アレグレ交響楽団(ブラジル)、新日本フィルハーモニー交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、東京シティ・フィル、群馬交響楽団、九州交響楽団、神戸市室内合奏団などに客演し、08-10年はスタラザゴラ歌劇場首席客演指揮者を務めた。2017年には、ブルガリア・ルセで行われた世界屈指の規模を誇る「ブルー・ドナウ国際オペラ指揮者コンクール」で第2位を受賞。今後ブルガリア各地の歌劇場とセルビア・ベオグラード国立歌劇場への客演が決まっている。

オーケストラプロフィール



九大フィルハーモニー・オーケストラ
Kyudai Philharmonic Orchestra

© 有山 正樹

九大フィルハーモニー・オーケストラは、九州大学と福岡市近郊の大学の学生で構成される日本でも有数の永い歴史と伝統を持つアマチュアオーケストラである。現在、100名以上の現役部員が所属し、アクロス福岡シンフォニーホールにて開催される年2回の定期演奏会を目標に、精神的に活動している。1909年に九州大学の前身である福岡医科大学の柳保三郎氏によって創立され、以降、石丸寛氏や荒谷俊治氏、堤俊作氏を指揮に迎え、発展を遂げてきた。

1924年には皇太子時代の昭和天皇ご成婚を祝す「摂政宮殿下御成婚奉祝音楽会」にてベートーヴェン/交響曲第9番「合唱」第4楽章を演奏。一説に日本初演と言われている。さらにはメンデルスゾーン/交響曲第4番「イタリア」やハイドン(L.モーツァルト)/交響曲「玩具」などの日本初演を果たすなど、明治から大正時代にかけての日本のオーケストラを牽引してきた。

2009年には九州大学に先立って創立100周年を迎えるとともに、永年にわたる音楽文化の向上や地域文化の振興に大きな役割を果たしていることにより、福岡市民文化功労賞を受賞。2014年には鈴木優人氏を九大フィル初代ミュージックアドバイザーに迎え、さらなる活動の充実を図っている。2018年8月には200回を数える定期演奏会を記念し、東京のサントリーホールにて特別記念演奏会を開催した。

定期演奏会の他にも、箱崎水族館喫茶室でのクラシックセッション(アンサンブル演奏)への参加や九大祭での音楽喫茶の出店、幼稚園での創作オペラ上演など、地域に根差した文化活動を展開。官公庁や企業、学会からの依頼による出張演奏なども行っており、福岡県内の様々な場所において幅広い音楽活動を行っている。

《アクセス》
アクロス福岡シンフォニーホール
 西鉄福岡天神駅から徒歩10分
 地下鉄空港線天神駅16番出口から徒歩5分
 地下鉄七隈線天神南駅5番出口から徒歩7分
 バス停アクロス福岡・水鏡天満宮前から徒歩0分

公益財団法人アクロス福岡
 〒810-0001 福岡市中央区天神1丁目1番1号